



富士をバックに♡山中湖の白鳥♡(ネットから拝借)

私たち、精一杯、生きてきましたよね！

若い頃・・・

恋文を万年筆で書いた頃 ブルーブラックのインクは 勇気 (菱沼真紀子さん)

子育ての頃・・・

夫と子のでかけて後の居間にいて 忙中閑あり 緑茶が美味しい (井川栄子さん)

年を経て今・・・

朝ごとに十本の指それぞれを ねんごろに揉み かつ下をはく (堀田伶子さん)

(2019.3.9 日本経済新聞 歌壇より)

2019・今後の開館スケ、ジュール

★7月、9月開館日、前月記載を訂正します★

- ◆4月は通常20日(土)と21日(日)
- ◆5月は変則18日(土)～20日(月)
  - 18日(土)は変則10:00～13:00
  - 19日(日)も変則13:00～17:00まで
- ★若葉のころのおはなし会★
  - 大きい人向け：5月18日13:30～16:00
  - 語り手：全日本語リネットワークの方々とおはなし・沙羅のみんな
  - 小さい人向け：19日午前10:30～12:00
  - 語り手：全日本語リネットワークのみなさん
- ◆6月は通常15日(土)と16日(日)
- ◆7月は変則2週目13日(土)と14日(日)
  - ★第19回海の日のおはなし会★
  - 14日(土) 於：伊豆高原駅スの木の下
  - ★開館記念子どものためのおはなし会★
  - 15日(祝)10:30～12:00 於：沙羅の樹文庫

◆8月は延長17日(土)～20日(火)※  
◆9月は通常15日(土)と16日(日)

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。  
午前10:30～11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》  
みんなで勉強会(おはなし・沙羅)は、  
毎月開館日の土曜11:00～13:00

※文庫は原則第3週の日曜日とその前日の土曜日です  
※文庫の時間：土曜日は午後2時～5時、  
日曜日は午前10時～午後3時

沙羅の樹文庫

〒413-0235 伊東市大室高原7-122  
HP:saranokibunko.com

文庫あれこれ(Lineで送られた孫のお雛さま、片づけろんだ?)



◆あれよあれよと言う間に月も半ば、すくお彼岸で、卒業式、入学式と。そして平成から新しい元号へ。◆1番上の孫娘が、父頼に女の子は2浪はダメと言われ、医学部を諦め、薬学部に入り春には大学生に。思い思いの将来を描いて、2番目の孫娘は高校生に、3番目は中学生に。おじい、おばあは、ただ見守るのみ。健康であってほしい。◆文庫の子たちも、何人か高校へ、中学へ。小学校に入るのはだれかな。◆沈丁花のちよときつ香り春に春を感じながら歩いていると(ついに足の至るところの筋が痛みを訴えるようになり、お正月から、日に2、30分歩いています)、空に背伸びするように辛夷の花が咲いていました。辛夷は匂わないと思っていたのに、今頃咲くのですね。歩いていると野花だけでなく、思いもよらないことに気づきます。遅まきながら小さな自然探訪です。◆人間は勝手なもので、8年過ぎた3.11を遠くに感じるがあります。忘れて、と言う地元の人々の声を受け止めねばと思います。

(宮城県名取市瀬上地区・築地灯籠流し)



◆伊豆高原の駅から桜並木を登ってくると、2月に山焼きをした大室山がいつになくどっしりと存在感を見せていました。もう若草が萌えだした? 文庫のヒメジャラの若葉はまだのようです。◆新刊30冊、お気に召すでしょうか。◆雨はあがったようですが、どんよりした朝です。(西村)

本の紹介・書評のページ ★森林浴さんがご都合でしばらく執筆いただけないので、隔月の亜子さんと、あとは、文庫のスタッフ、そして、会員の皆さんにお勧め本の紹介をお願いします。ふるって寄稿のほど、お願いいたします。★

『たそがれてゆく子さん』(伊藤比呂美著 中央公論新社 2018年8月刊)

忙しくてどうにもならない時、私はパワフルな女性の勢いのあるエッセイ(日本語)を手に入れます。米原万里さんとか、佐野洋子さん、そして伊藤比呂美さん。昨年夏の新刊『たそがれてゆく子さん』は、タイトルも表紙も印象的です。

伊藤比呂美さんは1955年生まれの詩人。恋愛、結婚、出産、子育て、離婚、渡米、新たな伴侶、第3子の出産、娘たちの成長、更年期の体調の変化、ご両親の晩年・介護・看取りと、いろいろな出来事がこれでもかと続く中で(もちろんそれらは誰にでも訪れるのですが)、自分の仕事を投げ出さず(小休止はあり)、人生相談とエッセイなどを連載し、詩を書き、執筆もし、講演に出かけ、精力的に活動されています。『良いおっばい 悪いおっばい』(1985年)から始まった育児エッセイ。赤裸々な物言いいも直球の感情表現も、当時から発揮され、その後30年以上にわたり続々とつづられています。

新刊『たそがれてゆく子さん』はアメリカでの伴侶の闘病から始まります。ノンフィクションのドキュメンタリーだから壮絶ですが、『婦人公論』の連載なのでいつも通り淡々と書かれています。

(いずれ父親の最期の記録のように改めてまとめられることもあるかもしれません。)人は生き物だからいずれその命を終えるのだけれど、それに伴走することの難しさや苦悩、悲しみ、圧倒的な孤独がストレートに伝わります。

後半、すっかり大人になった娘たちが新しい家族を作り、母親といい感じの関係を育てていることに心の底から和みました。今回は素晴らしい家族の記録です。不幸や理不尽があるにしても、かけがえのない日々を書き続け、書くことで前に進んでいく方です。伊藤さんは昨年からの拠点を日本に移し、「今はすこーしも寂しくないわ♪」とあとがきを結んでいます。(笑) (西村 裕子)

「春に三日の晴れなし」とはよく言ったもので、花は満開なのにまだ寒い日が続き、そんな土砂降りの夕方に連悪く、追突されました。修理の手配ができたので、車を預け、明日からまたしばらく、大正生まれの母と過ごすために実家に行ってきます。(裕子)

文庫にある伊藤比呂美作品

一般書	
たそがれてゆく子さん	ID17624
ウマシ	ID17487
新訳 説経節	ID17034
読み解き「般若心経」	ID15183
大心	ID15129
おなか ほっぺ おしり	ID09090
トゲ抜き新鳥嶋地蔵縁起	ID5822

児童書翻訳

リフカの旅	ID11491
ビリー・ジョーの大地	ID00009
(上記2冊は、カレン・ハスの作品を詩人の伊藤さんならではの翻訳で、衝撃的な素晴らしい名作となっています。大人の人にもオススメの児童書)	



今の静岡市・昭和10年代の物語・・・

『寺町三丁目十一番地』(渡辺茂男作 福音館書店 1969)ID12874

40～50代のお母さんやお父さん(もちろん、現役子育て中のママ/パパ)なら、きっと読んだに違いないアメリカ児童文学の『エルマーとりゅう』シリーズなど数えきれないほど翻訳した著者が、故郷静岡市の寺町で育った頃の自伝的要素の濃い物語です。彼は私の大学の指導教授だったのですが、訳本はほとんど目を通しているのに、先生の出自が描かれているこの本を読まずに来ていました。で、思い立ってアマゾンから古本を手に入れたら、スタッフの、大学の先輩Nさんが、うちにあったのに、と。

子どもの本を読んでいてよく思うのは、海外では、自国の歴史や昔の暮らしが、手に取るように、豊かに(決して否定的ばかりでなく)語られている素晴らしい本がたくさんあるのに、日本では、時代の背景と日々の暮らしを彷彿とさせるものが少ないようです(私が日本の物語を読んでないのも問題)。

その点で、この本は、日中戦争から第2次世界大戦へと続く戦争の足音がまだ遠かった頃の、子沢山の、ある家族の暮らしを通して、家長としての父、所帯をやりくりする母、兄弟や近所の悪ガキとの遊びなどに、ああ、こんなにも楽しくのんびりしていた時代があったんだと、戦中生まれ自分と違った世の中をホーとして読めた一冊でした。静岡にも大火があったのですね。

静岡市内と伊豆半島では暮らしぶりもだいぶ違うでしょうが、また、長年を離れたところで暮らして静岡にこられた方も、これを読みながら、幼い頃を思い出してみれば? さすが、アメリカ生活とアメリカ児童文学を享受した作家にこそ書けるユーモアにも溢れ、安心して読める本でした。(さ・ら)



2019年3月に入った子どもの本

絵本

『こんとん』(夢枕獏文 松本大洋絵 偕成社 2019) ID12988  
 『巨人の花よめ』(菱木晃子文 平澤朋子絵 BL 出版 2018) ID12989  
 『奄美の生きもの調査 奄美の空にコウモリとんだ』(松橋利光写真 木元侑菜文 アリス館 2018) ID12990

読み物

『カテリネッラとおのフライパンーイタリアのおいしい話(こくまのどんどんぶんこ)』(剣持弘子訳・再話 剣持晶子絵 こくま社) ID12976  
 『千びきおおかみー日本のこわい話(こくまのどんどんぶんこ)』(筒井悦子再話 太田大輔絵 こくま社) ID12977  
 『地図を広げて』(岩瀬成子著 偕成社 2018) ID12983  
 『子ぶたのトリュフ』(ヘレン・ピーターズ文 エリー・スノードン絵 もりうちすみこ訳 さ・え・ら書房 2018) ID12978  
 『最後のオオカミ』(マイケル・モーパゴー作 はらるい訳 黒須高嶺絵 文研出版 2017) ID12979  
 『トンネルの向こうに』(マイケル・モーパゴー作 杉田七重訳 小学館 2018) ID12980  
 『ほくたちは幽霊じゃない』(ファブリツィオ・ガッティ作 関口英子訳 岩波書店 2018) ID12981  
 『バレエシューズ』(ノエル・ストレットフィール

ド著 朽木祥訳 福音館書店 2019) ID12982  
 ★以前、中村妙子訳で入庫

詩

『こども「折々のうた」100』(大岡信著 長谷川權監修 小学館 2019) ID12984  
 『クマのプーさんとぼく』(A・A・ミルン著 E・H・シェパード絵 小田島雄志/小田島若子訳 河出書房新社 2018) ID12985 ※いま、プーさん展をやっています。

参考資料

『絵本は心のへその緒ー赤ちゃんに語りかけるということ』(松居直著 NPO ブックスタート 2018) ID12986  
 『よみきかせのきほんー保育園・幼稚園・学校での実践ガイド』(東京子ども図書館編集・発行) ID12987

2019年3月に入った大人の本

フィクション他

『跳ぶ男』(青山文平著 文藝春秋 2019) ID17812  
 『本と鍵の季節』(米澤穂信著 集英社 2018) ID17814  
 『そして、バトンは渡された』(瀬尾まいこ著 文藝春秋 2018) ID17813 YAにも読ませたい!  
 『熱帯』(森見登美彦著 文藝春秋 2018) ID17815  
 『うつくしい繭』(櫻木みわ著 講談社 2018) ID17816

『発現』(阿部智里著 NHK 出版 2019) ID17817  
 『あちらにいる鬼』(井上荒野著 朝日新聞出版 2019) ID17818  
 『この道』(古井由吉著 講談社 2019) ID17819  
 『東京輪舞(ロンド)』(月村了衛作 小学館 2018) ID17824 ※亜子さんから奇贈(4月号に書評)  
 『ノースライト』(横山秀夫著 新潮社 2019) ID17827  
 『百代の過客一日記に見る日本人(ドナルド・キーン著作集2)』(ドナルド・キーン著 新潮社 2012) ID17825 『続百代の過客一日記に見る日本人(ドナルド・キーン著作集3)』(ドナルド・キーン著 新潮社 2012) ID17826

※入れてみました! 読んでみてください。

『帰還ー父と息子を分かち国』(ヒシャーム・マタール著 人文書院 2018) ID17820※ピューリッツァ賞受賞。リビアの赤い雲の作者

『芸の心ー能狂言終わりなき道』(野村二郎/山本東次郎著 笠井賢一編 藤原書店 2018) ID17821

『はな、茶の湯に出会う』(はな著 淡交社 2019) ID17822

生き方

『在宅無限大ー訪問看護師がみた生と死』(村上靖彦著 医学書院 2018) ID17823

新書

『1日一生』(酒井雄哉著 朝日新書) ID17811  
 『承久の乱ー真の「武者の世」を告げる大乱』(坂井孝一著 中公新書 2018) ID17783

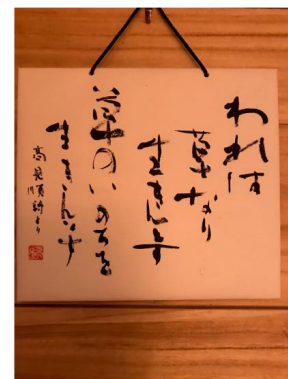
文庫

『冷血』(トルーマン・カポーティ著 佐々田雅子訳 新潮文庫) ID17807  
 『贖罪』(イアン・マキューアン著 小山太一訳 新潮文庫) ID17808  
 『タバの雲』(庄野潤三著 講談社文芸文庫) ID17809  
 『明夫と良二』(庄野潤三著 講談社文芸文庫) ID17810 以上3冊、古き名作、再読いか!  
 『奇想の系譜 又兵衛一國芳』(辻惟雄著 ちくま学芸文庫) ID17828 ※展覧会逃しました!

奇贈・文庫本ほか( Mさん他、から)

ありがとうございました!

『風葬』(桜木紫乃著 文春文庫) ID17791  
 『魔性の子』(小野不由美著 新潮文庫) ID17792  
 『啼かない鳥は空に溺れる』(唯川患著 幻冬舎文庫) ID17793  
 『ボイスドーター・ホーリーマザー』(湊かなえ著 光文社文庫) ID17794  
 『ユートピア』(湊かなえ著 集英社文庫) ID17795  
 『世界堂書店』(米澤穂信編 文春文庫) ID17796  
 『泥棒はスプーンを数える』(ローレンス・プロック著 田口俊樹訳 集英社文庫) ID17797  
 『死神遊び』(カミラ・レックバリ著 富山クラウン陽子訳 集英社文庫) ID17798  
 『妖怪』(平岩弓枝著 文春文庫) ID17799  
 『白髪の唄』(古井由吉著 新潮文庫) ID17800  
 『深川黄表紙掛取り帖』(山本一力著 講談社) ID17806  
 『ペトリの祭壇』(池内紀著 東逸子) ID17801  
 『蓮如物語』(五木寛之著 角川書店) ID17802  
 『背負い富士』(山本一力著 文藝春秋) ID17803  
 『犬が生きる力をくれた』(大塚敦子著 岩波書店) ID17804  
 『キャロリング』(有川浩著 幻冬舎) ID17805



葬送。～あちらで、また会いましょう。～

いつも仲良し3人組で文庫に顔を見せてくださったTさんが、2月下旬に亡くなりました。とても静かな方なのに存在感がありました。仲良しのスタッフMさんを通して、洋服を素敵にいくつも安く作っていただきました。お気付きの方もおられると思いますが、文庫の壁に掛けてある(岩波少年文庫の棚の真上)色紙(上の写真)も私の好きな高見順の言葉を、筆達者なTさんをお願いして書いていただいたものです。もっと大切なものになりました。きっとまたお会いできますよね。

だんだん年を重ねると、周りの方々が静かに、また突然、亡くなっていきます。2月の文庫の帰り際に、お二人の訃報を聞きました。一人は、私と同じ頃に、この地で「NPO 絵本の家」を始め、地域の子どもの読書環境や紙芝居発展に多大の貢献をされていた中込さんが、急に亡くなったこと。もう一人は、文庫を始めた頃、やはり文庫をやりたいとおっしゃって、大室山近くで小さな子どもたちとお母さんに本と出会う場所を提供していたMさん、まだお若かったのに。ご冥福をお祈りします。

(沙羅の樹文庫)

- 24. 日本の経済格差(榎本俊昭著 岩波書店 1998)
- 25. 西行花伝(辻邦生著 新潮社 1995)
- 26. 昭和史(半藤一利著 平凡社 2004)
- 27. もの食う人びと(辺見庸著 共同通信社 1994)
- 28. キメラ(山室信一著 中央公論新社 1993)
- 29. 反貧困(湯浅誠著 岩波書店 2008)
- 30. 逝きし世の面影(渡辺京二著 葦書房 1998)

知らない本、気づかなかった本、ありますねえー黄色いマーカーの本は文庫にあります。

あなたは何冊読みましたか?!  
 平成の30冊(読者120人が選んだ)  
 朝日新聞3.7

- 1. IQ84(村上春樹著 新潮社 2009)
- 2. 私を離さないで(カズオ・イシグロ著 早川書房 2006)
- 3. 告白(町田康著 中央公論新社 2005)
- 4. 観光客の哲学(東浩紀著 ケンロン 2017)
- 5. OUT(桐野夏生著 講談社 1997)
- 6. 火車(宮部みゆき著 双葉社 1992)
- 7. 銃・病原菌・鉄(シャレド・ダイヤモンド著 草思社 2000)
- 8. 博士の愛した数式(小川洋子著 新潮社 2003)
- 9. <民主>と<愛国>(小龍英二著 新曜社 2002)
- 10. ねじまき鳥クロニクル(村上春樹著 新潮社 1994)
- 11. コンビニ人間(村田沙耶香著 文藝春秋 2016)
- 12. 磁力と重力の発見(山本義隆著 美鈴書房 2003)
- 13. 昭和の劇(笠原和夫他著 太田出版 2002)
- 14. 生物と無生物のあいだ(福岡伸一著 講談社 2007)
- 15. トランスクリティーク(柄谷行人著 批評空間 2001)
- 16. 大水滄伝シリーズ(北方謙三著 集英社 2000)
- 17. 中央銀行(白川方明著 東洋経済新報社 2018)
- 18. 新しい中世(田中明彦著 日本経済新聞社 1996)
- 19. 献灯使(多和田葉子著 講談社 2014)
- 20. 東京プリズン(赤坂真理著 河出書房新社 2012)
- 21. 蒼穹の昴(浅田次郎著 講談社 1996)
- 22. チェルノブイリの祈り(スペトラーナ・アレクシエービッチ著 岩波書店)
- 23. マークスの山(高村薫著 早川書房 1993)